

## イチゴ種子繁殖型品種「よつぼし」の長日処理による花成誘導

井口 工・牛田 均・森 利樹・北村八祥・小堀純奈・今村 仁・鶴山浄真  
西田美沙子・前田ふみ・濱野 恵・木村文彦

香川県農業試験場研究報告 第66号(2016年3月) 27-35

イチゴ種子繁殖型品種「よつぼし」の促成栽培での長日処理による花成誘導技術開発のため、全国7地域の公的機関において連携試験を実施した。また、長日処理による花成誘導条件を解明するため幼若性および播種時期と葉齢の影響について調査した。

1. 連携試験の結果、「よつぼし」は盛岡以北で8葉期からの長日処理でも効果が認められたが、高温条件に影響されやすく、千葉県以南の促成栽培では、苗齢14葉で8月下旬からの長日処理が花成誘導に有効と考えられた。
2. 幼若性に関して、自然温度のとき長日処理は展開本葉12~13葉、25℃恒温のとき長日処理では展開本葉8~9葉頃に花芽分化すると思われ、この頃に幼若相を脱すると推定された。また、葉齢が進むほど花成促進が容易であることを確認した。
3. 播種時期と葉齢の試験結果より、6葉、8葉期からの長日処理は花成促進効果が認められず、10葉期は効果が不安定で、12葉期になると効果はそれより安定した。ただし、処理期間の温度の影響が大きいことがわかった。さらに、品種の特性として、早生性による出蕾時期の存在が認められた。

キーワード：種子繁殖，イチゴ，花成，長日処理，電照，促成栽培